

## 議 事 録

件名 アパレル技能科 教育編成委員会 管理No 11

日 時	2023年8月25日 14:00～16:00	
場 所	東京服飾専門学校(3H3,4) 豊島区巣鴨1-19-7	
出 席 者	<p>有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田 えりこ様  株式会社クレヨン営業本部人事部マネージャー 吉田 愛里様  ソーイングアサヒ株式会社 高橋 英一郎様</p> <p>東京服飾専門学校  山下 節子(校長) 古賀 由紀夫 上野 菜月 鷲典子</p>	
欠 席 者	なし	
概 要	<p>1.次年度における各科カリキュラム、シラバスの配布と編成経緯、変更点、留意点について  2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整</p>	
内 容	<p>①挨拶  ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へのお願い。  ・第11回 教育編成委員会の目的と議事項目</p> <p>②職業実践講座授業の実施途中結果  ・プレゼン能力強化、パワーポイントを使用して繰り返しプレゼンを行う事で成果を上げている  ・授業においてデザイン画&amp;平絵のスキルアップを行なっている  ・機材の導入を行い、全員が工業用ミシンを使うようになり、穴かがりミシンの増設も行い技術の習得において反復をすることにより習熟度を上げて行きたい。</p> <p>③今後の展望や問題点、課題</p> <p>[有限会社 ビーシーコスチューム太田様]  ・ポートフォリオ制作について  ポートフォリオは皆さん持ってくるがあまり参考にしていない。  職种的にポートフォリオで判断する仕事とは違うので、衣装じゃなくても良いので自分が作った作品を持ってきてもらう方が判断しやすい。  持ってきた時にアイロンをしていなかったり、汚れがついていたりすると、肝心な場でも心配りができないのかと思ってしまう。  綺麗に畳んで綺麗に見せようと努力している子とそうで無い子の違いは入社してからも差が出る場所である。  面接で全てがわかるわけでは無いので能力ではなく心配りができるかを重視している。  ・現場では現在人手不足でなり手も少なく、育たない現状にあり  受け皿は少ないが、目指してくれる人が増えると業界は助かる。  ・実務経験としての知識、技術の習得がこれから業界に出て行った場合に重要になってくるので、実際の研修などを通して就職に繋げてほしい。</p>	

	<p>[ソーイングアサヒ株式会社 高橋英一郎様]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採用に関して、履歴書以外に持ってきてほしいものは自分のやっていることが見れるものであれば良いと思う。縫製工場なので作品が参考になる。</li> <li>人材は基本洋服を縫うことが好きな人、これが大事です。</li> <li>・前の工場でのやり方を、注意しても変えてくれない人は困る、工場によつての縫製方法が違う部分を素直に受け入れてもらいたい。</li> <li>・学校では一通りのやり方を学んでいるでしょうが、いろいろな工場、アトリエで手順は変わってくるのでケースバイケースで素直に受け入れて、頭で理解する柔軟性が必要。</li> </ul> <p>[学校側]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年からのDX科も進み造形科ではインタラクティブボードとiPadの連携で授業を進めていき製図の授業では手順を含めてパワーポイントで解説をしている。</li> <li>部分縫いの授業では動画を撮って説明をしており、学生もYouTubeを見る感覚で作業ができる、全てのiPadにデータとして残る。</li> <li>・教員の事前縫製工場見学、後期は学生共に工場見学へ行き就職へと繋げて行きたい。</li> <li>・授業のオンライン活用、プレゼンツールの利用</li> <li>・1年次は基礎部分を習得、2年次には各学科事でインターンシップ研修等を通して実践型を行ない、企業連携の中で業界の人材ニーズを把握しながら人材育成を行なっていく。</li> <li>・企業との連携はこれからも、学生達が実社会に出て行き実務を行なっていくにあたり、とても重要でより深めていく必要がある、技術面においては反復する事により習熟度を上げていく事が重要である。</li> <li>・就活にあたり、プレゼンテーション能力の強化は不可欠になってくるため反復練習とポートフォリオなどの準備も強化している。</li> <li>・今後も出来る限り生の公演、観劇、展覧会などの実体験の機会を増やしていければと思います。</li> <li>・デザイン画の授業と服飾造形の授業との連携シラバスを作り作品の向上を図って行きたい。</li> </ul> <p>④総括</p> <p>引き続き、全学科において企業と連携したインターンシップ研修を実施。      企業理解、職種理解を深め、学生一人一人が自主的、主体的に学修に取り組み業界のプロとして活躍できる知識、技術、技量を身につけられるように育成をしていく。      これからの世の中の情勢を踏まえて、学校としてDXを推進、整備していく。      クラスルームなどの活用も順調に行なっている。</p>
添 付 資 料	教科内シラバス、職業実践講座関係資料
決 定 事 項	
課 題 事 項	
次 回 日 程	2024.3
特 記 事 項	

	作成者
	鷺